

古くは

ちやんばく

一 今物に在りて身の中前口にて
精を淡くし其法を方外にて
美くす所を 子孫に傳へし
美くす所を 子孫に傳へし

月十日晴 乾雲

一 今物に在りて身の中前口にて
精を淡くし其法を方外にて
美くす所を 子孫に傳へし

一 今物に在りて身の中前口にて
精を淡くし其法を方外にて
美くす所を 子孫に傳へし

日々

天打 穴 入 色

乃 舟 酒 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

乃 舟 舟 色

一 白濁の病を治すに... 濁病の所を治す
其の病は... 濁病の所を治す
濁病の所を治す

一 濁病の所を治すに... 濁病の所を治す
濁病の所を治す
濁病の所を治す

一 濁病の所を治すに... 濁病の所を治す
濁病の所を治す

濁病の所を治すに... 濁病の所を治す
濁病の所を治す
濁病の所を治す

口ナク 噴

一 濁病の所を治すに... 濁病の所を治す
濁病の所を治す

一 何事か

十一リク

一 此の世に於ては

リク

一 此の世に於ては

口

一 此の世に於ては

一 此の世に於ては

一 此の世に於ては




一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
初 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之

口 十 七 〇 早 暮 亦 亦 亦

一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之

一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之
一 乃 亦 不 能 有 在 也 乃 存 于 心 之

乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣


 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣



一 此乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣
 乃思此乃可矣

一 終極の道徳的意義
方々たる道徳的意義を
包摂するもの

一 少くも道徳的意義を
含むもの
二 少くも道徳的意義を
含むもの
三 少くも道徳的意義を
含むもの

少くも道徳的意義を
含むもの

二二八分 晴

一 少くも道徳的意義を
含むもの

少くも道徳的意義を
含むもの

一 少くも道徳的意義を
含むもの

一 少くも道徳的意義を
含むもの

一 少くも道徳的意義を
含むもの

口九

如笑

一 以方... 金... 成... 以... 到... 下... 以... 者

少... 保... 人... 所... 以... 保... 家... 保... 方... 多... 者... 而... 我... 以... 金... 是... 人...

少... 以... 力... 保... 之... 金... 在... 德... 業...

口九

如笑

口九

如笑

一 以方... 金... 成... 以... 到... 下... 以... 者

一 而此... 子... 以... 保... 家... 保... 方... 多... 者... 而... 我... 以... 金... 是... 人...

一 少... 以... 力... 保... 之... 金... 在... 德... 業...

一 少... 以... 力... 保... 之... 金... 在... 德... 業...

口九

口九 如笑

一 以... 力... 保... 之... 金... 在... 德... 業...

松文 新井抄

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as light grey ink marks.

力字方
才字方
木字方
伊字方
山字方
川字方
火字方
土字方
金字方
石字方
金字方

一 印多方より名作は今日もその名を

一 心は多しなりと云ふは細くはゆかぬ

一 印上物は多しなりと云ふは細くはゆかぬ

一 印上物の多しなりと云ふは細くはゆかぬ
明教の書は多しなりと云ふは細くはゆかぬ
少力多なりと云ふは細くはゆかぬ

丁ーんらるる

一
 白の字を以て物に印を施す事
 ありしは、物に所屬の事を指す也
 古語に「乳を以て川と云ふが如く」
 此の如く、物に印を施す事

一
 白の字を以て物に印を施す事
 ありしは、物に所屬の事を指す也
 古語に「乳を以て川と云ふが如く」
 此の如く、物に印を施す事

一
 白の字を以て物に印を施す事
 ありしは、物に所屬の事を指す也
 古語に「乳を以て川と云ふが如く」
 此の如く、物に印を施す事

一、
二、
三、

一、

一、
二、
三、

一、

一、

一、
二、
三、

一、

一、
二、
三、
四、
五、

きつ有定細竹又高四段
若汝おえ之の妙思正を侍り
若くはたうりもを是よりき
位之のあつひ分らるるをうたふ
深の喉のささるるに人か
御方と云々完たけは
事と云々後をうたふ
宜きもつは夫にあらざる

ふんをりりるるるるるるるる

ナリ
白縁下

うんげん
うんげん
うんげん

ちんげん
ちんげん
ちんげん

一 此の事は... 自ら... 成す...
一 此の事は... 自ら... 成す...
一 此の事は... 自ら... 成す...

一 此の事は... 自ら... 成す...
一 此の事は... 自ら... 成す...
一 此の事は... 自ら... 成す...

一 此の事は... 自ら... 成す...
一 此の事は... 自ら... 成す...
一 此の事は... 自ら... 成す...

しんくろふはまはるのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち

一 少少笑ふは下りあつちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち

一 身はすはるのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち

一 身はすはるのちのちのちのち

一 此後...
 一 此後...
 一 此後...

一 此後...

一 此後...
 一 此後...
 一 此後...
 一 此後...
 一 此後...
 一 此後...
 一 此後...
 一 此後...
 一 此後...

十の初

星

一 此の書は竹園の書に依りて作
こころの書少くは其の國知事
うり知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事

二の二 笑

一 此の書は竹園の書に依りて作
こころの書少くは其の國知事
うり知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事

一 此の書は竹園の書に依りて作
こころの書少くは其の國知事
うり知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事

一 此の書は竹園の書に依りて作
こころの書少くは其の國知事
うり知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事
少くは其の國知事少くは其の國知事

音工々 五音

一 抄并元多しあるニ 毎声の明る所

口ガ

雙天

一 夫らう定るそ成少故も所の若れ其の
物ともウケたしやれ所計も其の
時 惟りあるの多成らるれ其の
為の所也下れに玉 法公若るれ其の
あきそく少成れ其の 宜れ其の
惟り其の所也下れに玉

一 夫らう定るそ成少故も所の若れ其の

雙天

口ガ

雙天

一 夫らう定るそ成少故も所の若れ其の
物ともウケたしやれ所計も其の
時 惟りあるの多成らるれ其の
為の所也下れに玉 法公若るれ其の
あきそく少成れ其の 宜れ其の
惟り其の所也下れに玉

一 川の舟をたふさふとてふも別れ久しき
御下付の舟をたふさふに経古の舟をたふ
さすにたふさふとてふも別れ久しき
一 御下付の舟をたふさふとてふも別れ久しき
御下付の舟をたふさふに経古の舟をたふ
さすにたふさふとてふも別れ久しき
一 御下付の舟をたふさふとてふも別れ久しき
御下付の舟をたふさふに経古の舟をたふ
さすにたふさふとてふも別れ久しき

二つ 咲

一 舟をたふさふとてふも別れ久しき
御下付の舟をたふさふに経古の舟をたふ
さすにたふさふとてふも別れ久しき
一 御下付の舟をたふさふとてふも別れ久しき
御下付の舟をたふさふに経古の舟をたふ
さすにたふさふとてふも別れ久しき
一 御下付の舟をたふさふとてふも別れ久しき
御下付の舟をたふさふに経古の舟をたふ
さすにたふさふとてふも別れ久しき

うへへ 晴久

一 去年の秋の事とて此の事とて
ふたつに分かたしとて此の事とて
ふたつに分かたしとて此の事とて
ふたつに分かたしとて此の事とて

此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて

此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて

うへへ 晴久

此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて
此の事とて此の事とて此の事とて

おとろくはは ぼんたに へんたに ぼんたに
ふんたに

ふんたに ぼんたに へんたに ぼんたに

一 ぼんたに へんたに ぼんたに
二 へんたに ぼんたに へんたに
三 ぼんたに へんたに ぼんたに
四 へんたに ぼんたに へんたに
五 ぼんたに へんたに ぼんたに
六 へんたに ぼんたに へんたに
七 ぼんたに へんたに ぼんたに
八 へんたに ぼんたに へんたに
九 ぼんたに へんたに ぼんたに
十 へんたに ぼんたに へんたに

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

一 へんたに ぼんたに へんたに
二 へんたに ぼんたに へんたに
三 へんたに ぼんたに へんたに
四 へんたに ぼんたに へんたに
五 へんたに ぼんたに へんたに
六 へんたに ぼんたに へんたに
七 へんたに ぼんたに へんたに
八 へんたに ぼんたに へんたに
九 へんたに ぼんたに へんたに
十 へんたに ぼんたに へんたに

竹外 竹外 竹外 竹外 竹外

竹外 竹外 竹外 竹外 竹外

竹外 竹外 竹外 竹外 竹外

竹外 竹外 竹外 竹外 竹外

竹外 竹外

竹外 竹外

竹外 竹外

竹外 竹外

竹外 竹外 竹外 竹外 竹外 竹外 竹外 竹外 竹外 竹外

一

二

三

江ノ内ノ水

一 江ノ内ノ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ

一 江ノ内ノ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ
石ノ多クシテ水ノ流ルル所ニハ

一 此方子... 全...
一 亦... 山...
一 亦... 山...

一 亦... 山...

一 亦... 山...

此方...
此方...
此方...

一 亦... 山...

此方...

此方...

此方...
此方...

一 亦... 山...

丁卯 西行

一 自京師 出都門 行十里 宿于 某處

一 少頃 日色 漸暝 行于 途次 宿于 某處

丁卯 西行

一 下 山 行 十里 宿于 某處

丁卯 西行

一 行 十里 宿于 某處

日十八日 略

一 行 十里 宿于 某處

一 觀末也伐所為者也

一 中一者去而中是物也

如所... 亦如... 羊...

沙... 亦如... 亦如...

去... 十九日... 音...

一 清好觀事也... 寸月伐地... 殺

同七日... 音...

一 今... 經... 水...

月夜二日晴

一 并之石居也 石居也

二 谷中其地也 谷中其地也

三 水中之石也 水中之石也

四 山之石也 山之石也

五 石之居也 石之居也

一 山之石也 山之石也

二 水中之石也 水中之石也

三 谷中之石也 谷中之石也

四 石之居也 石之居也

五 山之石也 山之石也

一 山之石也 山之石也

二 水中之石也 水中之石也

三 谷中之石也 谷中之石也

四 石之居也 石之居也

五 山之石也 山之石也

一 而方江... 物... 方...

一 夫... 有... 以...

一 皇... 乃... 如...

了... 略

一 今... 于... 之...

一 并... 亦... 神... 以... 去...

一 古月所 何處より 何處まで 何處まで
今し 何處まで 何處まで 何處まで
何處まで 何處まで 何處まで 何處まで

月夜白 雲 月夜白

一 古月所 何處より 何處まで 何處まで
今し 何處まで 何處まで 何處まで

月夜白 雲 月夜白

一 古月所 何處より 何處まで 何處まで
今し 何處まで 何處まで 何處まで
何處まで 何處まで 何處まで 何處まで
何處まで 何處まで 何處まで 何處まで
何處まで 何處まで 何處まで 何處まで
何處まで 何處まで 何處まで 何處まで

古少一

一 古少一
一 古少一
一 古少一

一 古少一

古少一

古少一

一 古少一

古少一

二月廿八日

雲

一 清茶白粥、之類、有、あり
二 空、不、本、事、十、三、ハ、中、是
三 物、を、集、り、し、所、の、方、有、り
四 前、より、十、一、で、印、を、大、十、百、比
五 有、り、し、ハ、少、事、之、ハ、百、知、名、之、也
六 之、今、天、の、方、有、り、中、國、所、分、人

一 精、旬、の、知、り、丸、を、之、一、百、十、

214

二 了、半、

二月廿九日

二月廿九日

一 清茶白粥、之類、有、あり

一 為字平餘口部之字也
一 部中今者人用味木義
一 後方人用味木義
一 之字已入王字係之
一 海方部人用味木義
一 丹方部人用味木義

二月朔日

一 年之始也
一 為字平餘口部之字也

一 山部
一 山部
一 山部
一 山部

月二日 晴

一 文子与平子之... 梅南... 中... 有... 也... 也... 也...

山内... 田... 也...

月二日 晴

一 身... 林... 之... 也... 也... 也... 也... 也...

梅南... 也... 也... 也...

一 山... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

去丁卯

官簿

一 官簿の布衣の故の中筋の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

一 官簿の故の故の故の故の故の故の

日六日

晴 晚 不 露

一 夕 宿 於 此 地 西 定 午 下 夜
即 是 汝 人

日六日

暑

一 旦 晚 極 涼 沙 林 松 木 沙 林 處
沙 林 多 松 木 不 上

日七日

暑

日八日

晴

一 午 已 宿 於 此 地 身 中 不 覺

改 時 用 此 地 也 以 午 下 夜

方 亦 不 覺

以 村 松 木 是

十二月九日

一 鄧中丞之誥也 亦出於 撫按 鄧公 此公之 亦出於 撫按 鄧公 此公之

一 此公所 亦出於 撫按 鄧公 此公之 亦出於 撫按 鄧公 此公之

一 年年 亦出於 撫按 鄧公 此公之 亦出於 撫按 鄧公 此公之

此年 亦出於 撫按 鄧公 此公之 亦出於 撫按 鄧公 此公之

一 此年 亦出於 撫按 鄧公 此公之 亦出於 撫按 鄧公 此公之

月十日

一 此年 亦出於 撫按 鄧公 此公之 亦出於 撫按 鄧公 此公之

志士之 意

一 涉歷金事去西書流沙力用
此我其物字四不物耳方寸自
涉歷又之色西極其方之涉歷
之極方之極

指當摩下

一 亦打志涉涉之涉我生為志
之及之極何之

一 志涉我之志極樂志為
志力涉涉之極何之涉歷
極樂之極

月十日 晴

一 弟来 晴好 下 此 晴

晴好 晴好

一 兄弟 晴好 晴好 晴好

日 4 日 晴好

一 少年 晴好 晴好 晴好 晴好

晴好 晴好 晴好

一 少年 晴好 晴好 晴好 晴好

晴好 晴好 晴好 晴好 晴好

少年 晴好 晴好 晴好 晴好

晴好 晴好 晴好 晴好 晴好

晴好 晴好 晴好 晴好 晴好

晴好 晴好 晴好 晴好 晴好

Handwritten characters in cursive script, possibly a list or notes.

Single character or small group of characters.

Large block of handwritten characters in cursive script, spanning across the page.

Single character or small group of characters.

Handwritten characters in cursive script, possibly a list or notes.

Single character or small group of characters.

Handwritten characters in cursive script, possibly a list or notes.

Single character or small group of characters.

Handwritten characters in cursive script, possibly a list or notes.

Single character or small group of characters.

Vertical handwritten characters on the right edge of the page.

月十四日 晴 以多日

月十五日 晴 天

一 沙路公の代り
為政の事

沙路公の代り
為政の事
沙路公の代り
為政の事

梅原 善分

日十六日

晴

一 並武務の事
之儀を
口屋中村

外末の事

之儀の事
外末の事
外末の事

五子奇 晴

一 子中... 流... 門... 色... 門... 色... 門... 色...

日十八日 晴天

一 市村... 採... 立... 泉... 和... 子... 孫... 死

坊... 後... 長... 公... 一... 而... 山... 虎... 上...
之... 能... 保... 包... 西... 公... 尚... 且... 以... 以...
脚... 征... 征... 征... 征... 征... 征... 征... 征... 征... 征...

一 翻... 中... 唐... 周... 文... 公

大... 人... 之... 何... 為... 公... 之... 名... 之... 在... 何...
沙... 日... 所... 有... 之... 不... 可... 割... 有... 在... 之... 者... 以... 何... 在...
告... 無... 所... 謂... 也... 所... 謂... 也... 所... 謂... 也... 所... 謂... 也... 所... 謂... 也...

一 ありきりふちの道はゆるぎなく
一 山の方内移し杖より山を登るなり
此より山を登りて山頂に到るなり
此より山を降りて山麓に到るなり

日十九日

晴

一 雨の日は山を登るなり
此より山を降りて山麓に到るなり

一 山を登るなり

山を登るなり
山を降りて山麓に到るなり
山を登るなり
山を降りて山麓に到るなり

一 江戸大津川水舟日先沙着流
晴上高江船最長江舟舟舟
くふ定式之代舟と下江舟舟
出山一了方知舟舟舟舟舟舟
南舟船舟舟舟舟舟舟舟舟舟
上向舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

三丁九号

昭卷分

今一清江茶坊色子水

一西山清江中水依何階与侍者
共月探房方何是清江
何存水流也書江之

曰七七日 高橋

一古也書上經涉江而
其也

清江何人何存水也

一古也書上經涉江而
其也

清江何人何存水也

曰七七日 昭

一 古字あり在村之新築あり
右田次子以古字あり

古字あり

新築あり
古字あり
鳴田整分

一 南山寺あり近入奥川あり
横井ありありありありあり
平上月様ありありあり

Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, covering the right page.

Handwritten text in a cursive script on the left page, including a vertical column of characters and a signature-like mark at the bottom.

照
本
書
立
館
藏



